

1000ページ読破記 ☆佳作作品☆

日韓共催 FIFA WORLD CUP

1年2組 大浦 拓也

僕はこの1000ページ読破記を生かして、2002年に行われた『日韓共催FIFA WORLD CUP』において話題となった中田英寿選手、山本昌邦氏、ヒディンク氏、トルシエ氏の本を読むことにした。そして今回は、中田英寿選手と山本昌邦氏のトルシエ氏の采配に対する考え方の比較、ヒディンク氏とトルシエ氏の指導方針の比較を行うことにした。

その前に4人を簡単に紹介する。中田英寿選手は言わずと知れた日本サッカー界のスーパースターで、現在は日本代表のキャプテンをまかされている。山本昌邦氏は、WORLD CUPでは日本代表のコーチとしてトルシエ氏をサポートし、現在もU23日本代表の監督に就任して活躍している。ヒディンク氏はWORLD CUPでは韓国代表の監督として韓国代表をアジアで初のベスト4に導き、現在もオランダ一部リーグのPSVで監督に就任し活躍している。トルシエ氏はWORLD CUPでは日本代表を決勝トーナメントに導く活躍をしてくれた。以上が4人の簡単な紹介だ。

それでは、ここから本題の中田英寿選手と山本昌邦氏のトルシエの采配に対する考え方の比較を行う。

WORLD CUPのトルコ戦（トルシエの采配ミスで負けたとも言われた試合）での中田英寿選手は、記者の「トルコ戦での采配をどう思いますか？」という質問に対し、「正直言って、突然変わったことによるとまどいはあった。何故この布陣に変えたのかは、監督しか知らないが……。バランスを崩したのは否めないね。」と答えている。また「敗因を『トルシエの采配ミス』とする評論家が多かったですが、どう思いますか？」という質問に対しては、「対戦相手によって選手を変えるとこはあるが、あの状況ではそれは最適ではなかったと思う。やっぱり戦いを積み重ねていく上では『流れ』というものがあるからね。」と答えている。

このようなところから、中田英寿選手はトルシエのトルコ戦での采配を、あまりよく思っていないことがうかがえる。

一方、山本昌邦氏は著書で、「私の脳裏に一瞬後悔の念がよぎった。どこからチームが狂いだしたのか。もしあの時自分からトルシエにしっかりと意見が言えていたら……。まだ試合は終わっていないのだ。と頭から雑念を振り払おうとした。」と書いているところから、山本昌邦氏もやはりトルシエ氏のこの時の采配については不満があったようだ。

そして僕もこの時の試合については、自宅から観戦していたのだが、やはり今までとはいきなり違う

メンバーで臨んでいたのがかなり驚いた。それに何故メンバーを変えたのかという疑問もあった。だから僕もこの時のトルシエ氏の采配に関しては、あまりいいとは思わなかった。

次にWORLD CUPでのヒディンク氏とトルシエ氏の戦績は、韓国を率いたヒディンク氏がベスト4なのに対し、日本を率いたトルシエ氏はベスト16である。今まで均衡していた両者に差を与えたものは一体何なのか？僕はこの差が生まれた原因に、両監督の指導方針の違いがあると思い、調べることにした。違いの前にまずは、共通点を説明する。

- ①規則を守る。
- ②組織を確立する。
- ③基本システムを理解する。

次に違いについて説明する。ヒディンク氏は基本システムを理解している選手ならば、 $+ \alpha$ として状況変化に適切に対処することを要求していた。

しかし一方のトルシエ氏は、状況変化にも基本システムで対処することを要求したのだ。このことがWORLD CUPで選手との間に起こったトラブル（日本の選手が $+ \alpha$ の働きを自分たちの判断でし、これをトルシエ氏は、選手たちが自分の言うことを聞いていないと考えてしまった!!）の原因となり、日本は本来の力を発揮できず負けてしまったのかもしれない。

だから僕はヒディンク氏の指導方針は素晴らしいと思う。なぜなら、いくら基本システムを100%理解していたとしても、そのシステムでは対処しきれない場面が必ずあるからだ。だからそういう場面に直面したときに、トルシエ氏の基本システムだけのやり方では対処しきれなくても、ヒディンク氏の $+ \alpha$ なら対処できるのだ。

以上のことからWORLD CUPでの差が生まれたと考えられる。

最後になったが、現在の日本代表の監督であるジーコ氏には2006年に開かれるドイツWORLD CUP出場を目指して頑張ってもらいたい。

（おおうら・たくや）

中田英寿 nakata.net 新潮社
山本昌邦 山本昌邦備忘録 講談社
イ・インソク ヒディンクの法則77 DA I-X社
田村修一 トルシエ革命 新潮社

計1,134ページ

